

教授 登場

河村 哲二さん

経済学部教授

河村哲二先生はアメリカの経済論が専門で、ご著書も多し。先生には同窓会がこれまでいろいろお世話になってきた。今回も立て込んだスケジュールの合間を縫って、資料と書籍に埋まった研究室で親しくお話を聞かせていただいた。

膨大な博士論文を書く

私が研究を始めた1970年代は、バックス・アメリカナといわれる、アメリカを軸に戦後世界に持続的成長をもたらした仕組みが動揺し衰退した時期で、そうした戦後アメリカ経済の原型となった戦時経済の研究で博士論文を仕上げることになったのですが、日米戦のため1930年代末から戦後50年代までの資料も文献もほとんど日本にはあ

もともとは理系少年

生まれは群馬県で、子供時代は赤城山の麓で山野を駆け巡って育ち、小学校は途中まで分校。実のびのびと過ごしました。ずっと科学少年で、県立沼田高校に進学してしばらくは、当時のやりの電子工学を志していました。成績は良かったのですが、興味と関心にしたがって、小説を乱読したり、いろいろ好き勝手に勉強していました。

高校3年のころ、折しも戦後世界の政治経済は大きな転換期。社会・経済に大きく関心がかかり、東京大学に入学したのは71年、ニコンショックの年です。世界の政治・経済・軍事の中心であるアメリカを知らなければという感覚が非常に強くなりました。これが今に続くアメリカ経済研究の出発点となりました。その



専門はアメリカ経済論

一般にはニューディール期が戦後アメリカ経済を準備したように言われますが、戦時経済が決定的に重要であったことが明らかになりました。論文はゆうに千枚を超え、後に単著2冊で刊行しました。

「グローバル成長連関」と経済危機

現在の研究テーマは、バックス・アメリカナの変容とグローバル化の問題です。戦後経済が大きく転換する中で企業・金融・情報のグローバル化と政府機能の新しい自由主義的転

昨年3月、2年間の在米研究から復帰し、再び入門ゼミ(1年生)とアメリカ経済論、演習(ゼミ)を担当しています。入門ゼミではグループごとにテーマを立てさせ、夏

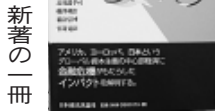
現代アメリカ経済へのあくなき探究心

学生はまず「自分の研究テーマをもて」

休み前に中間報告、12月に最終報告、その間に、論文の書き方など基本的な勉強の仕方を指導します。1年生でもきちんと論文をまとめてきます。

2年からの本ゼミでも、学生には「自分の利害にとらわれず大学時代しかできない大きな意味での学問を自身の研究テーマをもつ」と言っています。講義を聴いて本を読んでも、必ずしも本が読んでも、必ずしも「一度」といわれる深刻なものになりました。今、政府と中央銀行がかりがらうして

2008年秋のリーマンショック前後とみに深刻化したグローバル金融危機は、この仕組みが破綻したもので、そのため文字通り「グローバルに波及し」「百年に一度」といわれる深刻なものになりました。今、政府と中央銀行がかりがらうして



新著の一冊

その後10年かけて博士論文『第二次大戦アメリカ戦争時経済論』を完成しました。

高水準の内定率を引き続き保つ 法政企業人コミュニティも学生に人気

2月1日実施の進路状況調査によると、15年度卒業生の内定保有率は、94.4% (前年同月比0.5ポイント増)であり、卒業間近となったが、現在でも就職活動中の4年生に對し、きめ細かい個別相談対応を実施している。今年も企業への選考開始が2カ月早くなることで、(4年次の8月から6月に変更)、年明けから3年生の個別相談が途切れることなく続き、現在、キャリアセンタースタッフ総出で4年生支援・3年生支援を並行して行っている状況であるが、96%を少し超える

特に3年生支援については、就職活動時期が変化することによる準備不足を防ぐため、連日、さまざまな行事も展開している。まず、常に学生から人気を博している「法政企業人コミュニティ」(法政BP C)を複数回実施した。企業の第一線で働く卒業生と学生が率直に話せる自由な場を提供し、多くの参加学生は「働くことはどういふことか」の自覚を高めたと同時に、業界・企業の理解も深めることができたようだ。

また、就職ガイダンスおよび業界・仕事研究会を増やすなど、今後も重層的なサポートを意識していきたい。(キャリアセンター・大山賢一)

多摩の息吹

現役学生のキャンパス便り 経済学科3年 菊地 直弥



私の大学生活も半分が過ぎ、折返し地点に差し掛かっています。1年目を振り返ると、思い浮かぶ言葉は「なんとなく」という言葉です。1年生の時、私はサークルに所属する訳でもなく、何かに打ち込む訳でもなく、ただ「なんとなく」大学生活を送っていました。五月病と言った方も知れないですね。このような経験を持つ方は多いと思います。かくいう私もその一人でした。このままではいけないなと思い始めたのが秋頃です。

16年度入試状況 志願者数が初めて10万人を突破

経済学部は14%増に

法政大学の16年度一般入試の志願者総数は、前年度より79,900人増えて10万1,976人となり、初めて10万人を超えた。

入試方式別で見ても、A方式(個別日程)入試が3,962人増、T日程(統一日程)入試が1,051人増、大学入試センター試験利用入試のB方式が17,166人増、C方式が8,331人増、すべての方式で前年度を上回った。また、新設の英語外部試験利用入試には6学部合計で4,300人の志願者があった。

学部別では15学部中13学部で志願者が増え、そのうち2学部で前年度比160%を超えた。社会科学系学部の人気回復により、法学部、経済学部、社会学部といった規模の大きな学部でも志願者が大幅に増えたこと、理系4学部とも志願者が増えるなど「文高理低」の影響をあまり受けなかったことなどが、10万人突破の大きな要因と考えられる。

都道府県別では、東京、神奈川、千葉、埼玉の1都三県の志願者数が2年連続で全体の70%を超えたが、他の43道府県の合計志願者

数も増加しており、さらに地域会場の志願者数も増加していることから、全国的に志願者が増えたと考えられる。

17年度入試に向けては、これまで紙の願書とインターネット出願を併用していたが、全面インターネットにしてグローバル化に対応し、出願に移す。また、国際文化学部でセンターB方式が導入され、これで全15(入学センター・宮瀬慎也)学部で同方式が実施されることになった。昨年引き続き、スリーグローバル大学としてグローバル化に対応した入試制度の導入を進めている。

校友会代表議員に選出 菅野里見氏・加藤毅氏

一般社団法人法政大学校友会代表議員は、法人発足後2年間の経過措置として「代表議員選出経過措置規程」に基づき選出され、その任期は16年3月までとなっていました。

このため次期代表議員は定款第8条に則って選出することになり、「経済学部同窓会を主たる所属団体と届け出た校友会正会員」に、任期は16年4月から4年間となります。(経済学部同窓会選挙管理委員会事務局)



菅野里見氏



加藤毅氏

学部	2016年度	2015年度	前年度比
法学部	12,130	10,811	112.2
文学部	9,213	9,159	100.6
経済学部	11,320	9,928	114.0
社会学部	10,602	9,154	115.8
経営学部	12,543	12,433	100.9
国際文化学部	3,109	3,371	92.2
人間環境学部	4,198	3,266	128.5
現代福祉学部	3,992	2,349	169.9
キャリアデザイン学部	4,558	4,790	95.2
グローバル教養学部	1,248	759	164.4
スポーツ健康学部	3,160	2,894	109.2
情報科学部	2,525	2,291	110.2
デザイン工学部	6,485	6,044	107.3
理工学部	11,451	11,367	100.7
生命科学部	5,442	5,370	101.3
合計	101,976	93,986	108.5